

科学技術イノベーションのための システム改革試案

笠木 伸英

（独）科学技術振興機構 研究開発戦略センター 上席フェロー
東京大学 名誉教授

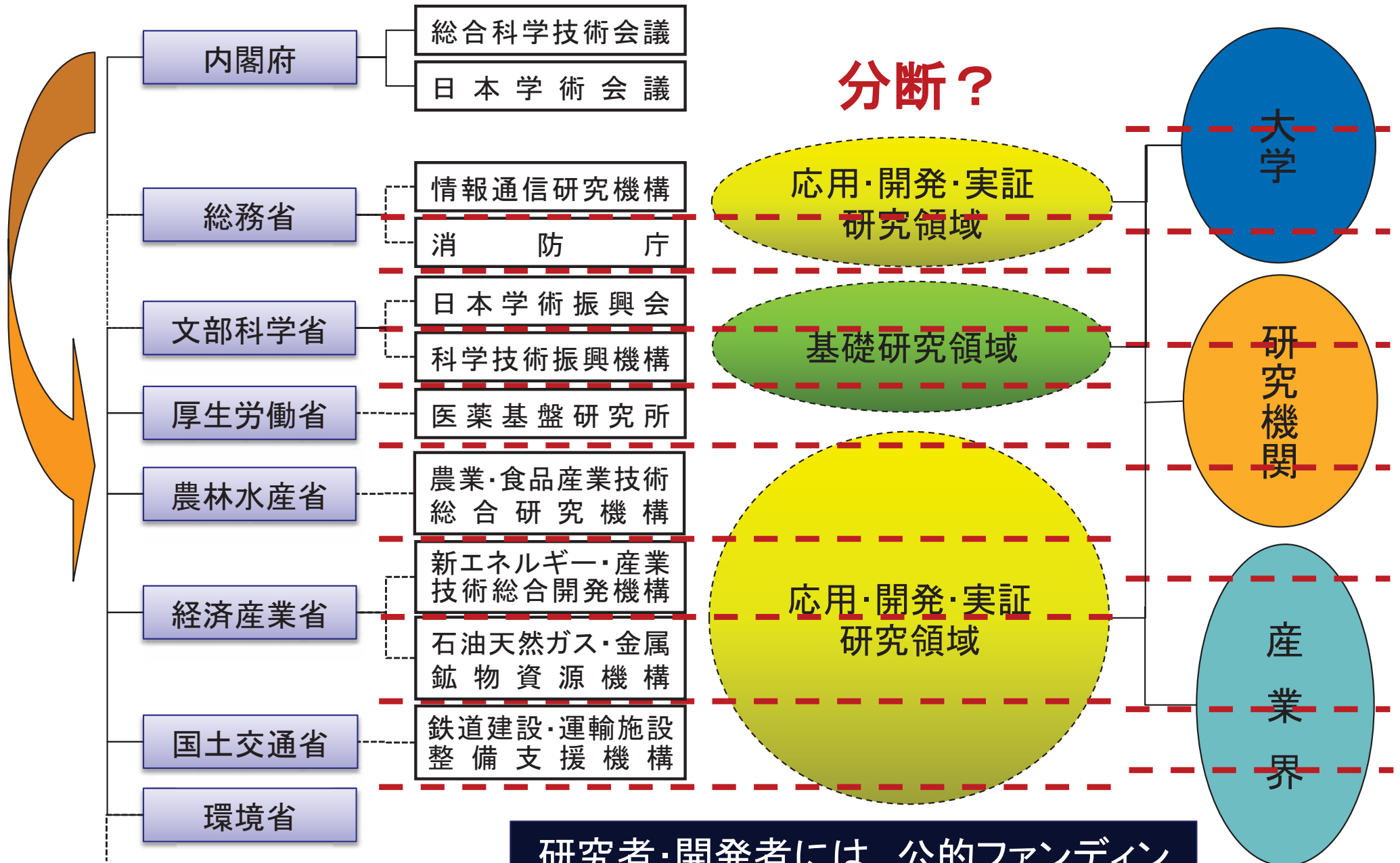
失われたXX年？

- 科学技術基本計画によって研究の水準は上がったが、各研究者による研究成果は分散したまま
- 明示的な政治的意思と研究者の役割意識の欠落が、研究成果が社会的恩恵になることを阻害
 - 政策決定者: 科学に対する社会からの期待の明示の欠如, 研究者間の組織的分断の放置, 研究者を魅力的な職とする施策の不在
 - 科学者: 公的研究費の使用が国民の期待に応える責任を伴うことに対する認識不足, 科学者コミュニティが社会の中で果たしている役割の一部を担っているという自覚の欠如
- イノベーション創出に向けた組織的取り組みの欠陥

イノベーション創出への組織的取り組み？



現状の研究開発ファンディングスキーム



研究者・開発者には、公的ファンディングの背景にある政策的意図は見えぬ

科学者の第二の役割と行動規範

- 現代科学の底流としての「社会のための科学」(ICSU, Budapest, '99)
- 科学の社会契約 (Social Contract for Science)
 - 公的資金を得て研究を進める科学者の特権に伴う社会的責任 (J. Lubchenco, Science, '98)
- 科学者の第二の役割:「社会, 政治の助言者」としての科学者の役割と行動について, 社会, 政府, メディアとの理解共有が不在
- 多くの政策立案過程で要請される科学的助言の中立正当性を担保する仕組みが不在 (委員会, 審議会の機能?)
- 科学者の「行動規範」と共に, 政策立案プロセスにおける「科学者の助言制度」の整備が必要 (Ex. 科学顧問, 公的シンクタンク)

イノベーション戦略協議会の機能

- 第4期科学技術基本計画（平成23年8月）でのシステム改革（以下，抜粋要約）
 - 国は，総合科学技術会議（若しくは，「科学技術イノベーション戦略本部（仮称）」）の調整の下で，「科学技術イノベーション戦略協議会（仮称）」を創設
 - 科学技術イノベーション戦略協議会は，一体的な推進に向けて，関係府省や資金配分機関，大学，公的研究機関，産業界，NPO法人等の多様で幅広い関係者の主体的な参加により，緊密な連携，協力を行う場
 - 戦略協議会は，重要課題の将来ビジョンを明確にし，その実現に向けた戦略策定に資するため，基礎から応用，開発，事業化，実用化まで，各フェーズにおいて推進すべき具体的な研究開発，規制・制度改革，達成目標，推進体制，資金配分の在り方等について幅広い観点から検討
 - 戦略協議会は，戦略の推進に係る全体マネジメントを担い，参画機関及び関係者は，戦略マネージャーの全体調整の下に連携，協力しつつ，取組を推進

提案(1)イノベーション戦略協議会の機能発現

- 実質的な議論を可能に(幹事会議, テーマ会議なども)
- 国家的な視点からの議論に, 行政官も構成員として参加
(Cf. Round Table of NAS/DOE)
- 他の戦略協議会, TF, WG, 部会, 専門調査会との実質的連携, CSTPからのフィードバック
- PDCA作業プロセスの具体化と担当者(戦略マネージャー?)
 - 網羅的に政策オプションのリストを形成する段階
 - 政策オプションの絞り込みをする段階
 - 各政策の推進法を検討し, 実施する段階
 - 各政策の効果を評価する段階
- 客観的根拠(エビデンス)を収集, 考察する専門家集団としての公的シンクタンク機能の必要性(「科学技術イノベーション政策推進のための有識者研究会」報告書(2011年12月)など)
 - JST/CRDS, NISTEP, RIETIなどへの受託

提案(2) 科学者の役割意識の啓発

- 日本学術会議へ諮問
 - 科学者の意識改革(社会的な期待に応えるインセンティブ), 俯瞰的視野からの社会的課題発掘や知の統合の実現などへの具体的方策
- 研究開発の公的ファンディング制度毎の位置付けと目的について再整理, 周知
 - 研究者の科学的な探求心に駆動される基礎研究を支える科学研究費
 - 社会の期待を代弁する政策の実現に向けた研究開発を推進する研究開発事業(優れた科学者の力を社会の期待に向けるインセンティブ)